

说 明

本教材共分两部分：第一部分是文语语法，第二部分是文言文选读。日语专业高年级开设这门课程，目的是为掌握现代日语中的文语打下基础。编写中参考的有关材料将在第一部分后面列出，文中不再一一注明。为使内容简明易懂，多采用列表方式，常用的内容叙述较详，其他则作参考材料附记于各条之后，以备查找。

本教材是由周宝如教授于 1984 年编写完成的。至 1999-2000 年第二学期原有教材已经告罄，加之原有教材由于多次油印，质量已经大大下降，无法适新的学期教学的需要。因此教研室决定对原教材重新进行排版印刷。由于时间紧迫，缺点和错漏之处在所难免，希望在使用过程中提出宝贵意见，以便日后修改、补充。

日 语 教 研 室
2000 年 2 月

目 录

前言.....	4
历史假名用法.....	6
练习一.....	9
第一部分 文语语法	
第一章 动词.....	10
一、动词的分类.....	10
二、动词的活用.....	10
三、各活用形的主要用法.....	16
四、动词的音便.....	19
五、补助动词.....	19
六、敬语动词.....	20
练习二.....	22
第二章 形容词、形容动词.....	23
一、形容词.....	23
二、形容动词.....	25
练习三.....	28
第三章 体言、修饰语、独立语、造语.....	29
一、体言.....	29
二、修饰语.....	31
三、独立语.....	35
四、造语.....	37
练习四.....	40
第四章 助动词.....	41
一、助动词的种类.....	41
二、「る」「らる」；「す」「さす」「しむ」.....	41
练习五.....	46
三、「ず」「ざり」；「じ」「まじ」.....	47
练习六.....	50
四、「き」「けり」；「ぬ」「つ」；「たり」「り」.....	51
练习七.....	57
五、「む」「むず」「らむ」「けむ」「めり」 「らし」「まし」「べし」.....	58
练习八.....	65

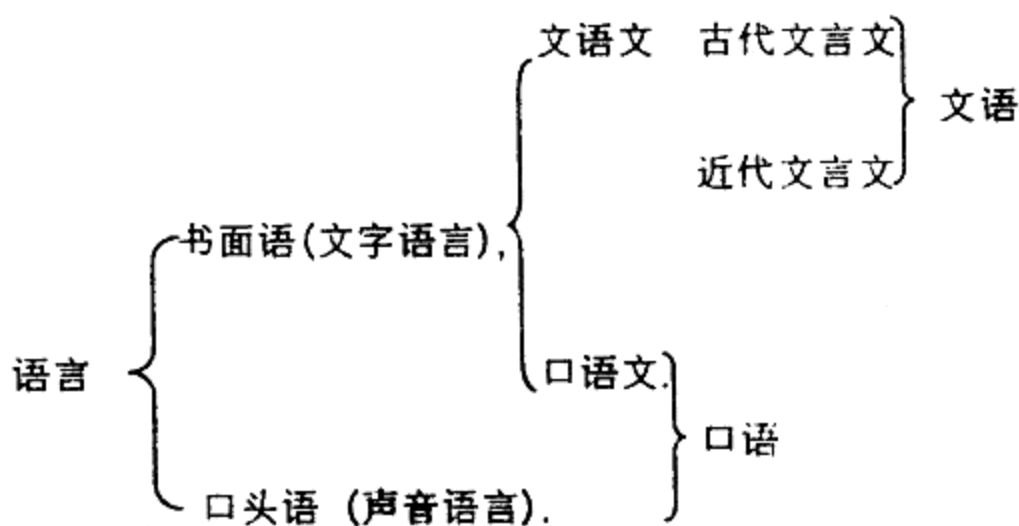
六、「なり」「たり」；「なり」.....	66
七、「たし」「まほし」；「ごとし」「ごとくなり」.....	69
练习九.....	71
第五章 助词.....	74
一、助词的种类.....	74
二、格助词.....	74
三、接续助词.....	81
练习十.....	87
四、係助词.....	88
五、副助词.....	92
练习十一.....	95
六、终助词.....	96
七、间投助词.....	98
练习十二.....	99
附表.....	101
一、文语助动词活用表.....	101
二、文语助动词接续表.....	104
三、文语助词一览表.....	105
四、助词接续表.....	107
五、易混淆的词语.....	108
六、文法上的容许事项.....	110
七、音便现象.....	114
八、句型.....	116

参考书目

前言

一、文语与口语

日语的文语是日本古代的书面语,是以平安时代中期以前的文章,(散文如「枕草子」、「源氏物语」,韵文如「古今和歌集」)为基础形成的。这时代的文章语言和语法形式一直为历代所使用,直至江户末期。这种文章称作古代文言文。明治以后,提倡「言文一致」、口语文(始于古代白话文)逐渐取代了文言文,但应用文等却使用起被称作「普通文」的文体,用这种文体写的文章称作近代文言文。古代文言文和现代文言文统属文语。日语的口语则是日本现代使用的语言,它包括口头语和书面语。



二、文语与口语的不同点

- 1、发音和表记符号方面,古代语言的发音与现代语言有所不同。当时所使用的表记符号又不完全与发音一致,这种假名称作「歴史的仮名遣」(历史假名用法),而现在所使用的表记符号基本上与发音相一致,称作「現代仮名遣」(现代假名用法)。
- 2、词汇方面,有一些古代语现在已变成死语不复使用,一些词语为新语所代替,还有一些词语在意义上有所改变,这些都是应特别予以注意的。此外,有一些训读词在不同场合要用不同的汉字,以区分语义的细微差

別。如,

おもふ--思ふ、想ふ、念ふ、帷ふ、憶ふ、懷ふ。

おそる--恐る、懼る、畏る、怖る。

みる--見る、看る、診る、視る、観る。

3、语法方面,一般地说,文语语法是以平安时代中期以前的文言文(具体指假名文)为基础概括出的语言规律(再早些时候的奈良时代,语法还有其特殊之外)。以后虽经鎌倉、室町、江戸各时代都有发展变化,但大体上仍保持了以前的基本面貌,所以文语语法大体仍按照平安时代假名文(和文)的语法规则来学习。其中与现代口语法差别较大的是用言、助动词的活用及助词(特别是係助词)的用法。这点在学习中应特别加以注意。

三、学习文语的现实意义。

1、解决现代日语中残存的文语现象,以提高阅读与翻译能力。现代日语中残存的文语,主要表现在:书名、电影名、歌曲名;文章的大小标题,成语、典故、格言、谚语;古文句的引用;习惯表达方法;公文、书信的格式语;歌曲、诗词、和歌、俳句等方面。

2、寻源求本,以加深对现代日语中一些语言现象的认识。

3、为学习近代文学作品(如:文学作品选读课中的『舞姫』、『たけくらべ』一类文章)和明治以来至二次大战结束前的实用文扫除语言上的一些障碍。

4、为选修日本文学史及进一步学习古典作品打下初步基础。

历史假名用法

(历史假名用法)

(现代假名用法)

(1) 短音:

か行 くわ (お菓子)	か (お菓子)
が行 ぐわ (一月)	が (一月)
だ行 ち (女性)	じ (女性)
づ (図画)	ず (図画)
は行 は (庭)	{ わ (庭) は (助詞)
ひ (平)	い (平)
ふ (買ふ)	う (買う)
ふ (倒る)	お (倒る)
へ (前)	{ え (前) へ (助詞)
ほ (顔)	お (顔)
わ行 ゐ (居る)	い (居る)
ゑ (声)	え (声)
を (魚)	{ お (魚) を (助詞)

(2) 長音:

才段長音:

あう (奥)	おう
かう (更)	こう
がふ (甲)	こう
がう (拷)	ごう
がふ (合)	ごう
さう (相)	そう

さふ(插)	そう
ざう(象)	ぞう
ざふ(雑)	ぞう
たう(党)	とう
たふ(塔)	とう
だう(堂)	どう
なう(囊)	のう
なふ(納)	のう
はう(方)	ほう
はふ(法)	ほう
ばう(坊)	ほう
ばう	(ぼう)
まう(猛)	(もう)
やう(様)	(よう)
らう(勞)	ろう
らふ(臘)	ろう
わう(往)	おう

ウ段拗音:

ウ段拗長音:

(いう)(有)	(ゆう)
きう(九)	きゅう
きう(急)	きゅう
ぎふ(牛)	ぎゅう
しう(秀)	しゅう
しふ(集)	しゅう
じふ(十)	じゅう
ちふ(中)	ちゅう
ぢふ(重)	ぢゅう=じゅう
にふ(入)	にゅう

(ひう)	ひゅう
(びう)	びゅう
(びう)	びゅう
(みう)	みゅう
りう(流)	りゅう
りふ(立)	りゅう

(4) オ段拗音:

えう(要)	(よう)
(えふ)(葉)	(よう)
けう(幸)	きょう
けふ(今日)	きょう
げう(焼)	ぎょう
げふ(業)	ぎょう
せう(焼)	しょう
せふ(妾)	しょう
(ぜふ)	じょう
てう(調)	ちょう
てふ(蝶)	ちょう
でう	ぢょう=じょう
ねう	にょう
でふ	ぢょう=じょう
へう	ひょう
べう	びょう
(ぺう)	(びょう)
めう	みょう
れう	りょう

练习一

一、将下列词汇的汉字填入括号内。

あんりょ	()
ゐる	()
さくわん	()
ちうや	()
いちりう	()
せうしん	()
いっぺう	()
あふひ	()
ぐわいこく	()
いうじん	()
にふがく	()
でうやく	()
れうり	()
きやうだい	()
ならふ	()
をり	()
しふしん	()
けういく	()
いちでふ	()
あふる	()
かはる	()
はうちやう	()
にちえふ	()
せうせつ	()
とうへう	()
びやうき	()

第一部分 文语语法

第一章 動詞

一、文语动词的分类

(文语)		(口语)
1 四段活用	}	1 五段活用
2 ナ行变格活用		
3 ヲ行变格活用		
4 下一段活用		
5 下二段活用		2 下一段活用
6 上一段活用	}	3 上一段活用
7 上二段活用		
8 カ行变格活用		4 カ行变格活用
9 サ行变格活用		5 サ行变格活用

二、文语动词的活用

1. 四段动词活用表

行	基本形	语干	未然形	连用形	終止形	连体形	已然形	命令形
カ行	書く	か(書)	か	き	く	く	け	け
ガ行	泳ぐ	お よ (泳)	が	ぎ	ぐ	ぐ	げ	げ
サ行	貸す	か(貸)	さ	し	す	す	せ	せ
タ行	打つ	う(打)	た	た	つ	つ	て	て
ハ行	買ふ	か(買)	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
バ行	飛ぶ	と(飛)	ば	び	ぶ	ぶ	べ	べ
マ行	読む	よ(読)	ま	み	む	む	め	め
ラ行	乗る	の(乗)	ら	り	る	る	れ	れ
主要用法及后续词			ば む ず	たり て	とも 结句	体言	ば とも	

参考:

主要四段活用动词:

カ行——咲く、引く、行く、(飽く、如く、生く、分く)

ガ行——仰ぐ、急ぐ、騒ぐ、防ぐ

サ行——為す、押す、流す、致す、おはす、召す、申す、滅ぼす、出す、過ぐす

タ行——保つ、分つ、(満つ)

ハ行——会ふ、言ふ、言ふ、思ふ、習ふ、失ふ、歌ふ、候ふ、伺ふ、給ふ(敬語)、使ふ、舞ふ、養ふ、匂ふ、願ふ、競ふ、追ふ、負ふ、問ふ、請ふ、疑ふ、伝ふ、従ふ、行ふ、とぶらふ(報ふ)、訪ふ、厭ふ、能ふ

バ行——学ぶ、綻ぶ、喜ぶ

マ行——読む、詠む、止む、(恨む、染む、埋む)、望む、

ラ行——罵る、入る、来たる、参る、成る、帰る、増さる、なさる、散る、宣る、賜る、宿る、劣る、(借る、足る、忘る、触る、垂る、隠る、恐る)

2 ナ行変格活用動詞

基本形	語干	未然形	连用形	终止形	连体形	已然形	命令形
往ぬ	い(往)	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
死ぬ	し(死)	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
主要用法及后续词		ばむず	たりて	結句とも	体言	どもば	

注:有时用 サ变动词「死す」代替「死ぬ」。

3 ラ行変格活用動詞

基本形	語干	未然形	连用形	终止形	连体形	已然形	命令形
喰り	あ(有)	ら	り	り	る	れ	れ
主要用法及后续词		ず、むば	てきき	結句とも	体言	どもば	

注:ラ変動詞有:有(在)り、居り、然り、侍り、いますがり、いまそがり、(非ず、非り是「有り」的否定)

4 下一段活用動詞

基本形	語干	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
蹴る	け(蹴)	け	け	ける	ける	けれ	けよ
主要用法及后续词		ば むず	て たり	結句 とも	体言	ども ば	は

5 下二段活用動詞

行	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ア行	得(う)	(得)	え	え	う	うる	うれ	えよ
カ行	受く	う(受)	け	け	く	くる	くれ	けよ
ガ行	投ぐ	な(投)	げ	げ	ぐ	ぐる	ぐれ	げよ
サ行	寄す	よ(寄)	せ	せ	す	する	すれ	せよ
ザ行	交ず	ま(交)	ぜ	ぜ	ず	ずる	ずれ	ぜよ
タ行	捨つ	す(捨)	て	て	つ	つる	つれ	てよ
ダ行	出づ	い(出)	で	で	づ	づる	づれ	でよ
ナ行	兼ね	か(兼)	ね	ね	ぬ	ぬる	ぬれ	ねよ
ハ行	数ふ	か ぞ (数)	へ	へ	ふ	ふる	ふれ	へよ
バ行	述ぶ	の(述)	べ	べ	ぶ	ぶる	ぶれ	べよ
マ行	求む	も と (求)	め	め	む	むる	むれ	めよ
ヤ行	越ゆ	こ(越)	え	え	ゆ	ゆる	ゆれ	えよ
ラ行	流る	な が (流)	れ	れ	る	るる	るれ	れよ
ワ行	植う	う(植)	ゑ	ゑ	う	うる	うれ	ゑよ
主要用法及后续词			ば む ず	て たり	結句 とも	体言	ども ば	

参考:主要下二段動詞

○ア行-----得、心得

カ行-----受く、掛く、開く、避く、助く、付く、避く、負く、分

く

ガ行-----上ぐ、掲ぐ、告ぐ、逃ぐ、投ぐ

サ行-----載す、合はす、失す、仰す、瘦す、馳す

ザ行-----混ず

タ行-----捨つ、育つ、立つ、隔つ、企つ、当つ、果つ、

ダ行-----出づ、奏づ、撫づ、秀づ、詣づ、愛づ

ナ行-----寝ぬ、兼ぬ、重ぬ、尋ぬ、束ぬ、連ぬ、寝、委ぬ、刎ぬ

ハ行-----教ふ、与ふ、訴ふ、憂ふ、衰ふ、数ふ、構ふ、堪ふ、伝、
ふ、変ふ、考ふ、加ふ、答ふ、支ふ、揃ふ、ふ、経、調
ふ、唱ふ、添ふ、抑ふ、迎ふ、給ふ(謙語)

バ行-----比ぶ、浮かぶ、調ぶ、食ぶ、述ぶ

マ行-----埋む、諫む、固む、攻む、極む、清む、定む、認む、眺む、
求む、勤む、始む、止む、宥む、病む、集む

ヤ行-----甘ゆ、見ゆ、聞こゆ、燃ゆ、覚ゆ、肥ゆ、越ゆ、栄ゆ、冴
ゆ、煮ゆ、吠ゆ、映ゆ、殖ゆ、冷ゆ、癒ゆ、凍ゆ、怯ゆ、
消ゆ、絶ゆ、萌ゆ

ラ行-----流る、溢る、現る、生まる、恐る、垂る、疲る、偏る、晴
る、罰る、忘れる、折る、慣る、乱る、枯る、隠る、暮
る、下さる

ワ行-----植う、飢う、抛う

6 上一段動詞

行	基本形	語干	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
カ行	着る	(着)	き	き	きる	きる	きれ	きよ
ナ行	似る	(似)	に	に	にる	にる	にれ	によ
ハ行	干る	(干)	ひ	ひ	ひる	ひる	ひれ	ひよ
マ行	見る	(見)	み	み	みる	みる	みれ	みよ
ヤ行	射る	(射)	い	い	いる	いる	いれ	いよ
ワ行	居る	(居)	ゐ	ゐ	ゐる	ゐる	ゐれ	ゐれ
主要用法及后续词			ば む ず	て たり	結句 とも	体言	ども ば	

参考：主要上一段动词

カ行——着る

ハ行——干る、放る、はなひる(嘆る)

マ行——見る、試みる、惟みる、顧みる、後みる、鑑みる

ワ行——居る、率ゐる、用ゐる

7 上二段活用動詞

行	基本形	語干	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
カ行	起く	お (起)	き	き	く	くる	くれ	きよ
ガ行	過ぐ	す (過)	ぎ	ぎ	ぐ	ぐる	ぐれ	ぎよ
タ行	落つ	お (落)	ち	ち	つ	つる	つれ	ちよ
ダ行	恥づ	は (恥)	ぢ	ぢ	づ	づる	づれ	ぢよ
ハ行	強ふ	し (強)	ひ	ひ	ふ	ふる	ふれ	ひよ
バ行	滅ぶ	ほう (滅)	び	び	ぶ	ぶる	ぶれ	びよ
マ行	恨む	うら (恨)	み	み	む	むる	むれ	みよ
ヤ行	悔ゆ	い (悔)	い	い	ゆ	ゆる	ゆれ	いよ
ラ行	懲る	こ (懲)	り	り	る	るる	るれ	りよ
主要用法及后续词			ば む ず	て たり	結句 とも	体言	ども ば	

参考：主要上二段動詞

カ行——生く、起く、尽く、(避く)

ガ行——過ぐ

タ行---落つ、朽つ

ダ行---怖づ、閉づ、綴づ、捻づ、恥づ、攀づ、紅葉づ

ハ行---帯ぶ、大人ぶ、媚ぶ、忍ぶ、荒ぶ、延ぶ、亡ぶ、佗ぶ

バ行---帯ぶ、大人ぶ、媚ぶ、忍ぶ、荒ぶ、延ぶ、亡ぶ、佗ぶ

マ行---恨む、試む

ヤ行---老ゆ、悔ゆ、報ゆ

ラ行---下る、懲る、古る、許る

8 カ行変格活用動詞

基本形	語干	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
来(く)	(来)	こ	き	く	く	くれ	こ(よ)
主要用法及后续 詞		ば ず む	ぬ て	結句 とも	体言	ば ども	

注：有时用ラ行四段动词「来たる」代替「来(く)」。

9 サ行変格活用動詞

基本形	語干	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
為(す)	(為)	せ	し	す	する	すれ	せよ
主要用法及后续 詞		ば ず む	き て	結句 とも	体言	ども ば	

注：有时用サ行四段动词「なす」代替「す」。

参考：主要サ変動詞及複合動詞

- ①死す、期す、謝す、辞す、伍す、害す、略す、具す、帰す、愛す、
達す、有す、宣す、了す、化す、会談す、学問す、
②命ず、生ず、論ず、信ず、任ず、念ず、ず、禁ず、談ず、応ず、通
ず、亡ず、御覧ず、長ず、重んず、軽んず、甘んず、先んず、疎ん
ず

③旅す、罪す、尽す、物す、心す、枕す、あるじす、私す、紅葉す、
欲す

④死にす、向けす、送りす、あやまちす、嘉みす、以てす

⑤全うす、白くす、明らかにす、かたじけなうす、

⑥専らにす、新たにす

三、動詞各活用形的主要用法

1 未然形(包括假定形)

(1) 接否定助动词「ず」或「ざり」「じ」表示否定。口語——ない、ぬ。

(2) 接推量助动词「む」(ん)表示推量、意志、劝诱、委婉……。

口語——だろう、う(よう)

(3) 接接续助词「ば」表示顺态假定条件。

口語——ば、もし……ならば。

例:

(1) 井の中の蛙、大海を知らず。

百聞、一見に如かず。

頭かくして、尻かくさず。

虎穴入らず(ん)ば、虎児を得ず。

知れる人もあらず。

長城に到らざれば、好漢に非ず。

(2) 明日は雪降らむ。

いざや、いざや、見に行かん。

山雨来らんと欲すれば、風楼に満つ。

山青くして、花は燃えんと欲す。

之を如何にせん。

勝利の来らん日も遠からじ。

あらん限りの努力をせん。

満山、紅葉して、美しさ言はん方なかりき。

(3) 急がば廻れ。

春こば、花咲かん。

雨降らば、中止せむ。

毒を食はば、皿まで。

2 連用形

(1) 接接续助词「て」表示接续(四段动词一般不发生音便)。口语——て

(2) 接完了助动词「たり」表示完了、存续。口语——た、ている

例:

(1) 雨降りて地固まる。

日暮れて道遠し。

青は藍より出でて、藍より青し。

恐懼感激の至りに堪へず、謹みて奉答す。

(2) 梅の花咲きたり。

昨日試験を受けたり。

川は昼夜流れたり。

家の内は暗き処なく光満ちたり。(竹取物語)

3 終止形

(1) 結句。

(2) 接续助词「とも」表示逆态假定条件, 或恒时条件。口语——ても

例:

(1) 一年の計は春にあり。

芸は身を助く。

つねに五時に起く。

敵艦見ゆ。

難、汝を玉にす。

(2) 雨降るとも行かむ。

困難ありともへこたれじ。

死ぬとも、この恩を忘れじ。

4 連体形

実るほど頭を垂るる稲穂かな。